

第 7 回 東京都公金管理アドバイザー会議 議事要旨

日 時	平成 30 年 12 月 21 日（金） 16：00 ～ 17：30
場 所	都庁第二本庁舎 31 階 特別会議室 21
出席者	委 員) 今井委員、大崎委員、大槻委員、根本委員、幸村委員 計 5 名 事務局) 土淵会計管理局长、野口管理部長、村本総務課長、山下資金運用担当課長、春日井課長代理、松原課長代理、佐藤課長代理、横堀主任、有井主任、山田主事 計 10 名
欠席者	なし
議 題	1 預金先金融機関の中間決算を踏まえた預金対応（邦銀、外国銀行） 2 外国銀行預金制限の見直し 3 預金運用商品制限の見直し 4 債券運用対応
要 旨	<p>(1) 会計管理局长挨拶</p> <p>(2) 第 7 回東京都公金管理アドバイザー会議の公開・非公開の取り決めについて</p> <p>本会議は、東京都公金管理アドバイザー会議設置要綱第 5 条で原則公開と定めているが、委員の意見を聞いたうえで、非公開とすることができると規定している。</p> <p>議題の内容を踏まえ、委員全員が非公開にすべきとの意見を表明したことにより、今回は非公開とすることを決定。</p> <p>(3) 議題 1 「預金先金融機関の中間決算を踏まえた預金対応」（邦銀、外銀）</p> <p>事務局 ・ 預金先金融機関（邦銀、外銀）の経営状況について、中間決算等を踏まえ、健全性等の観点から分析を行い評価内容等を報告。</p> <p>委 員 ・ 預金先金融機関（邦銀、外銀）の評価内容と、それに応じた預金対応については、適正なものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安全性を更に高めていくため、金融情勢・経済動向を踏まえ、慎重かつ幅広い分析を行い、適切な預金先や運用商品等の拡充に向け、今後も積極的に取り組んでいくことが必要。 ・ 預金先金融機関を評価するに当たっては、昨今の金融環境における不透明性を踏まえ、株価や金利動向の影響なども十分考慮に入れて、分析していくことが重要。 ・ 中間期における預金先金融機関の評価においては、中間決算の分析に加え、通期の業績見通し等も考慮して分析すべき。 <p>事務局 ・ 委員の意見を踏まえ、一層、公金の安全性を確保していくため、預金先の拡充等を検討していくとともに、より精緻な評価等を実施すべく取組を進める。</p>

(4) 議題2「外国銀行預金制限の見直し」

事務局 ・外国銀行の預金制限を一部見直す案について、また、見直し案を踏まえた預金対応について説明。

委員 ・公金の安全性の確保と効率的な運用の両立を更に目指していく観点から、預金制限を一部見直すことは妥当で、見直し案についても適正なものである。
・グローバルな資金の流れや各国当局の動きなども十分考慮に入れた上で、評価していくことが重要。

(5) 議題3「預金運用商品制限の見直し」

事務局 ・預金運用商品制限を一部見直す案について説明。

委員 ・預金の安全性及び流動性を一層高めるという観点から、運用商品制限を一部見直すことは妥当で、見直し案についても適正なものである。

(6) 議題4「債券運用対応」

事務局 ・債券発行体の経営状況について、決算状況を踏まえ健全性等の観点から分析を行い、債券発行体の評価等を報告。

委員 ・債券発行体の評価内容とそれに応じた債券運用の対応については、適正なものである。

以上